

日本ラカン協会第 10 回ワークショップ

日時 : 2010 年 10 月 31 日 (日) 14 時~17 時
場所 : 専修大学神田校舎 7 号館 774 教室 (7F)
(〒101-8425 東京都千代田区神田神保町 3-8)
神保町駅 (地下鉄/都営三田線、都営新宿線、半蔵門線) 出口 A2 より徒歩 3 分
参加費 : 無料

日本ラカン協会では以下の要領で、第 10 回ワークショップを開催致します。
どなたでも参加可能ですので、ふるってご参加下さい (参加費無料)。

タイトル : 「後期ラカンへのアプローチ」

(各提題 40 分、質疑応答 : 全体で 60 分)

提題者 : 荻本 芳信 (荻本医院)

ラカンの *sexuation—Savoir du psychanalyste* の一セミネール(1972 年 6 月 1 日)を中心に

提題者 : 上野 修 (大阪大学)

真理と主体—デイヴィドソンの根元的解釈とラカン

提題者 : 原 和之 (東京大学)

言語と場所—ラカンの「オイラー図」批判から出発して

司会 : 磯村 大 (金杉クリニック)

提題概要

ラカンの *sexuation—Savoir du psychanalyste* の一セミナー(1972年6月1日)を中心に
荻本芳信 (荻本医院)

主に *Savoir du psychanalyste* の最後のセミナー(1/6/72)を下敷きにして、以下の問いに答えてゆくことにします。①ラカンは論理学、集合論について独自の捉え方をしていますが、*sexuation* の式からこれらをどう読み取るべきか。②この時代のラカンの思想がポロメオの輪においてはどのように反映されて現れてくるか。③*sexuation* の式と四つの言説を繋げることは可能か。(当日、各自、上記セミナーを [http://gaogoa.free.fr /SeminaireS.htm](http://gaogoa.free.fr/SeminaireS.htm) からプリント・アウトして持ってきていただけると有り難いです・荻本)

真理と主体—デイヴィドソンの根元的解釈とラカン

上野修 (大阪大学)

ラカンの「シニフィアン」の問題系に、分析哲学のドナルド・デイヴィドソンの意味理論を接続する。問題の中心は、真理と意味との関係、および言語修得における真理の審級の役割と原抑圧との関係である。シニフィアンへの同一化の議論をデイヴィドソンの「根元的解釈」の理論と対比させながら、主体の隠喩化の論理を明らかにしたい。参照されるテキストは次のとおり。デイヴィドソン:『真理と解釈』、『主観的、間主観的、客観的』、『真理と述定』のそれぞれに所収の論文。ラカン:『エクリ』所収の「主体の転覆」、「科学と真理」。

論理と場所—ラカンの「オイラー図」批判から出発して

原和之 (東京大学)

「オイラー図」とは、複数の円を利用して集合間の関係を示す図である(日本ではむしろ(若干の違いはあるものの)「ベン図」という呼び方が分かりやすいと思われるが、ここではラカンの用いた呼称に従う)。『同一化』のセミナーでトポロジーの装置を導入するにあたって、ラカンはこれを、論理的な思考の中に空間的な直観の諸前提を、検討されないまま導入してしまうものとして批判した。しかしにもかかわらず、ラカンはその後もいくつかの場面でこの図を利用し、やがてファンタスムについての議論の中核的な装置として利用するようになる。本発表では、この「批判」後のオイラー図の持つべき意味を検討し、それが後期におけるトポロジーの参照との間に持つ関係について考察する。

問い合わせ先: 日本ラカン協会事務局
〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学 駒場キャンパス 18号館 原研究室
E-mail: sljsecretariat@netscape.net